

2026年 年頭所感

(一社)日本建設機械施工協会
中国支部長 河合 研至



2026年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年2025年は、中国地方においては幸いにして大きな災害の発生は比較的少ない年となりました。

建設業の使命として地震や豪雨等の自然災害が発生するといち早く被災の最前線に出向き、一日でも早く復旧・復興のため常日頃から迅速に対応できるよう努めているところですが、昨今の建設業を取り巻く状況は物価高や慢性的な人手不足など克服すべき様々な課題が山積しており、依然として厳しい状況が続いています。

2025年6月6日、「第1次国土強靱化実施中期計画」が閣議決定されました。2026年から5年間を計画期間として、20兆円強程度を目途とする事業規模が見込まれています。

事業内容は一昨年の能登半島地震・豪雨など、近年頻発する自然災害の教訓を踏まえたほか、埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故などを踏まえ、予防保全型のインフラメンテナンスへの早期転換や気候変動などの状況変化にも対応する内容となっています。

この中期計画では「推進が特に必要となる施策」(案)が示されており、施策(案)として「防災インフラの整備・管理」では流域治水対策等の推進など。「ライフラインの強靱化」では道路施設の老朽化対策や上下水道施設の戦略的維持管理・更新など。「デジタル等新技術の活用」では自動施工技術を活用した建設現場の少人化対策などについて、取組を推進するとしています。

国土交通省では、建設現場の少人化対策として「i-Construction2.0 建設現場のオートメーション化」に向けた取組みを推進するため、「ICT 施工 Stage II」試行工事が実施中です。

この「ICT 施工 Stage II」は、建設現場における建設機械の位置情報や稼働状況、施工履歴など様々な情報をリアルタイムに集約し活用することで、建設現場のデジタル化・見える化を進めるとともに、必要な資機材配置や作業工程などを見直すことで作業の効率化を図り、更なる省人化を目指す取組で、中国地方整備局管内でも当協会支部会員企業による試行工事も多数実施されています。

日本建設機械施工協会では、建設現場で働く一人ひとりが生み出す価値を向上させ、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場の実現を目指して、建設現場のオートメーション化の推進・支援に取り組んでまいります。結びに、皆様のご健勝と益々のご活躍を心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

中国地方整備局との「意見交換会」を開催

(一社)日本建設機械施工協会中国支部(以下「JCMA中国支部」という。)では、毎年中国地方整備局との意見交換会を実施しており、今年度も令和7年11月21日(金)に広島合同庁舎1号館会議室にて開催しました。

1. 河合研至支部長挨拶(要旨)

建設業界を取り巻く昨今の状況は、改善の兆しがみられる一方で、建設資材の高騰、慢性的な人手不足への対応、働き方改革の推進と生産性の向上による建設業の魅力向上など様々な課題が山積している。また、激甚化・頻発化する自然災害への対応、公共インフラ施設の老朽化対策の計画的な実施を進め、国民の安全・安心な生活を確保することが一層求められている。

このような中、中国地方整備局では、『i-Construction2.0』の推進や『インフラDX推進計画2025』の取組みによる生産性向上と働き方改革の推進、計画的かつ継続的な国土強靱化対策の実施、地球温暖化対策としてのカーボンニュートラルに向けた取組み、TEC-FORCEの増強と新たな応援体制の構築などの施策を実施されてきている。

JCMA中国支部は、令和7年4月に『建設DX講習会』を開催するとともに、中国地方整備局や地方自治体における『i-Conセミナー』等の支援、ICT施工Stage IIについての『新技術活用等現場研修会』の開催、あるいは『建設技術フォーラム』への会員出展、また『道路除雪講習会』の実施など、幅広い活動を行っている。

本日の意見交換会は、事前に会員各社から、

- (1)建設機械に関する事項として「i-Construction」及び「適正な利潤の確保」など
- (2)インフラメンテナンス・災害対応に関する事項として「河川・道路維持」及び「災害対応」など
- (3)機械設備の品質確保に関する事項として「点検整備」、「設備周辺のインフラ整備」並びに「入札・契約」など

を中心に、意見・要望を募り、特に意見交換したい議題について集約をしたところであり、今回は自由なテーマでの議論も予定されている。

今回集約した議題について、中国地方整備局の幹部の皆様にご説明し、回答を頂く意見交換会を行うことにより、支部会員各社が当協会活動の有益性の共有や活動意義を一層深めることに繋がるものと考えている。

2. 吉岡企画部長挨拶(要旨)

『i-Construction2.0』では更なる自動化、遠隔化にチャレンジしているが、新技術や技術開発を建設生産システムへ入れていくことが非常に重要だと認識している。

令和7年は渇水がクローズアップされた年であったが、熊本など九州地方での大きな水害、土砂災害も発生しており自然災害に対する防災は非常に重要になってきている。

来年度の当初予算も含めて切れ目なく国土強靱化中期計画を進めていかないといけないと思っている。

一方、予算の確保だけではなく担い手確保も非常に重要なテーマであり、また資材価格高騰が生じてきているという現状もある。建設産業すべてにおいて、若い担い手の確保、新4Kの実現について



JCMA中国支部 河合支部長挨拶



中国地方整備局 吉岡企画部長挨拶

進めるようによろしく願います。

3. 意見交換会の概要

意見交換では、『i-Construction』の普及拡大に向けた課題や、災害対応、機械設備の品質確保に関する課題などについて意見・要望を行い、双方の認識を共有するとともに、解決策や今後の方向性についての議論を深めました。

【主な議題】

建設機械関連	インフラメンテナンス、災害対応関連	機械設備の品質確保関連
(1)i-Constructionに関すること (2)適正な利潤の確保に関すること	(1)河川・道路維持に関すること (2)災害対応に関すること	(1)点検整備に関すること (2)設備周辺のインフラ整備に関すること (3)入札・契約に関すること

【回答（抜粋）】

■建設機械関連

- ・遠隔施工については令和6年度、7年度に各1工事を試行工事として実施しているところ。対応する建設機械の台数など地方の事情等も考慮し、各県1工事程度を受注者希望型として今後試行することを考えている。



意見交換会の様子

■インフラメンテナンス、災害対応関連

- ・除雪作業装置を自動化した除雪機械は今後全国で段階的に導入する予定であり、中国地整においても購入予算の要求を行っているところ。
- ・土木研究所において開発した「除雪機械オペレーター支援アプリ」があり、スマホやタブレットなどの携帯端末にインストールし使用できるので試行的に活用していただくことも検討している。

■機械設備の品質確保関連

- ・排水機場等、重要機械設備の経年劣化・老朽化対策は喫緊の課題と認識しており、維持管理計画を立てて対応しているところ。引き続き予算の確保をしながら老朽化対策や予防保全型メンテナンスへの転換などの計画的な工事発注に努めてまいりたい。

4. 自由課題（主な意見）

【テーマ1】：「社会インフラ整備の継続的な体制確保に関する懸案事項」について

- ・「部品供給状況から今後整備が出来なくなる機械設備等がないか」については、ポールチェンジモーターやゲート用モーターなどの特殊モーターについては今後販売をやめるメーカーも出てくるのではないかと危惧していることや、各設備の改良等によって従前の予備部品等が無くなってしまい、後継機にも合わないなどの不都合が生じるのではと考えているなどの意見がありました。
- ・「ダムとか堰で使用している大型油圧シリンダーのオーバーホール」や「熟練工の退職」については、技術者の減少とともに製作メーカー自体が無くなっているケースもある。また古いシリンダーではオーバーホールができないというような事案も発生しているなどの意見がありました。

【テーマ2】：「機械設備工事に関するDX、新技術・新工法の活用」について

- ・機械設備は「一品もの」的な場合が多く施工管理基準もオリジナルとなり難しいが、いろいろな機器を使って効率化を図ってもらい、この機器は機械設備工事に使えるなどを推進してもらえればとの意見が整備局からありました。

「機械設備関係意見交換会（実務者レベル）」を開催

JCMA中国支部では、令和7年12月11日(木)に機械設備関係を中心とした実務者レベルの意見交換会を広島YMCAの会議室にて開催しました。

○意見交換会の概要

冒頭JCMA中国支部の玉田企画部会長から本意見交換会の趣旨は、「業界の生の声を聞いて円滑な業務執行や業務改善等に生かしていただくこと」、「当支部会員が機械設備に特化して直接意見交換できる大切な公式の場であること」、「意見交換した内容を整備局の方々にはワンデーレスポンスや令和8年度の機械設備関係業務の改善に反映していただくこと」の3点を目的に開催している、と挨拶しました。

中国地方整備局企画部の岸本建設情報・施工高度化技術調整官（以下、「DX官」という。）からは、機械設備の分野においても老朽化した機械設備への対応、確実な点検の執行、不具合への対応、また計画的な更新など、これらを確実にやっていかなければならないと考えている。これらの対応について機械設備分野のDXの取り組み、担い手確保の取り組み、災害対応や大規模災害への備えなどについて、官民一体で取り組んでいく必要がある。いろいろとご協力の方よろしく申し上げます。と挨拶がありました。



要望・意見：玉田企画部会長



意見交換会の様子



挨拶：岸本DX官（整備局）

意見交換会の議題等の概要は以下のとおりです。

【主な議題】

点検整備に関する事項	故障に関する事項	入札・契約に関する事項	その他
<ul style="list-style-type: none">・故障修理の施工時期について・点検・整備内での修繕・整備について	<ul style="list-style-type: none">・故障時の現地確認について	<ul style="list-style-type: none">・機械設備工事の総合評価について	<ul style="list-style-type: none">・土木（維持工事）や電通と機械との連携について・鋼製付属設備の積算について ほか

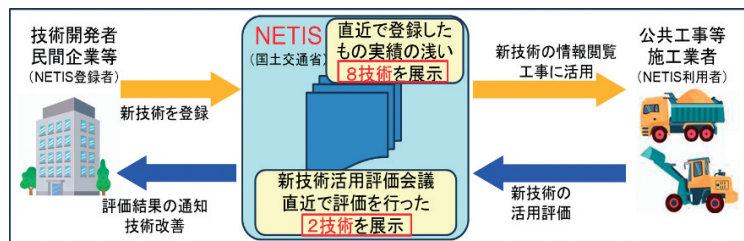
このほかにも「担い手不足に関する事項」や「機械設備工事の輸送費乖離に関する事項」について参加した協会員から現状の問題点報告、対応策にかかる自社での取り組み内容等について紹介を交えながら説明を行いました。これらの内容を踏まえ整備局職員との課題対応について前向きなやり取りが行われ、活発な意見交換会となりました。

中国地方整備局コーナー

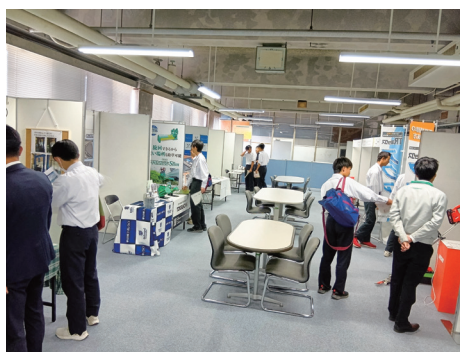
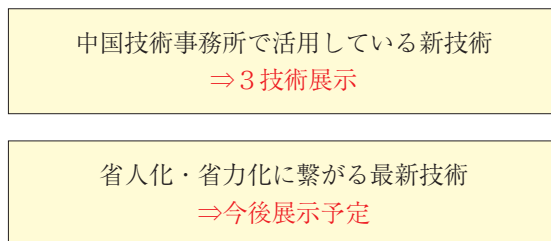
■新技術ショールームの開設（試行）

令和7年10月15日から12月18日まで、中国技術事務所1階において『新技術ショールーム』を試行的に開設しました。令和6年度にNETIS登録したものの、実績の浅い技術等の13技術を展示対象とし、中国インフラDXセンターや建設技術フォーラムの来場者を含めて265名の方が来場しました。今後もNETIS登録技術だけでなく、未登録技術の省人化・省力化に繋がる技術を対象に継続していく予定です。

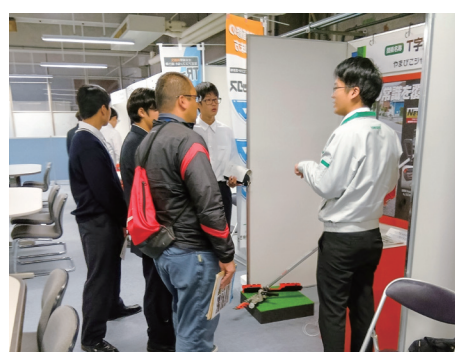
【NETIS登録技術】



【NETIS未登録技術】



ショールーム見学状況



出展者からの説明状況

■令和7年度中国地方建設技術開発交流会の開催

中国地方建設技術開発交流会は、産学官による新技術・新工法の普及、活用を図るための技術交流を目的とした建設技術に関する発表会であり、平成9年度から毎年中国5県で開催しています。

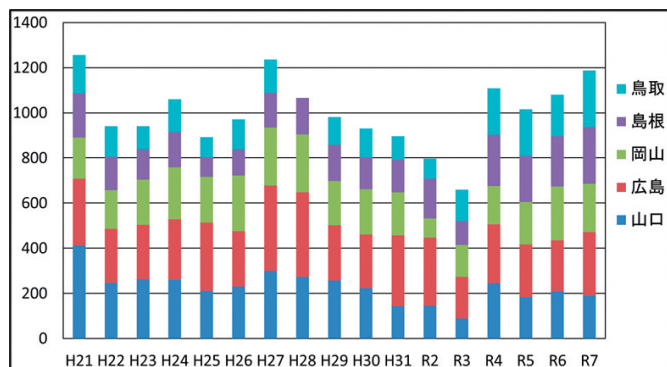
令和7年度は、「災害に強く、住みよい豊かな社会の創造を目指して」をメインテーマに、大学・工業高等専門学校等の教員による講演、学校関係や行政等で研究開発及び施工された技術の発表、民間による研究開発や施工された技術等の発表があり、(一社)日本建設機械施工協会中国支部会員からも「耐水モーターポンプによる災害リスクの低減」((株)西島製作所)として広島県会場で技術発表がありました。

交流会の状況については、中国技術事務所ホームページに掲載する予定です。インターネット配信を見逃した方はホームページよりご覧下さい。



広島県会場（中国技術事務所）

※令和7年度は会場とオンラインの併用で実施



年度毎の参加者数

お知らせコーナー

令和8年度の建設機械施工管理技術検定試験のスケジュール

(注) 第一次検定と第二次検定、1級と2級の各試験を同年度に受検することはできません。
第二次検定の受検申込みは、第一次検定合格の翌年度以降となります。

1. 1級・2級第一次検定のスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
受検の手引 (願書)の販売	第一次試験の受検申請はインターネット申請のみであるため、受検の手引(願書)の販売はありません。												
受検申請の受付		■ 2月16日～3月13日 (インターネット申請のみ)											
受検票の発送					● 5月29日 (予定)								
試験						● 6月21日 (日)							
合格発表								● 8月3日 (予定)					

2. 1級・2級第二次検定のスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般受検者を対象とする受検の手引(願書)の販売	再受検者の受検申請はインターネット申請であるため、受検の手引(願書)の販売はありません。											
	■	(FAX,TELによる郵送販売の申込みの受付) 1月19日～3月2日										
		■ (窓口販売) 2月2日～3月13日										
受検申請の受付		■ 2月16日～3月13日 (一般受検者の申請書類提出は3/13の消印があるものまで有効) ■ 2月16日～3月13日 (再受検者のインターネット申請)										
受検票の発送		■ 筆記試験: 5月29日 (予定)				●		● 実技試験: 7月15日 (予定)				
試験			■ 筆記試験: 6月21日 (日)				●		■ 実技試験: 8月下旬～9月中旬			
合格発表									● 11月18日 (予定)			

編集後記

三月の声を聞くと春の気配が少しずつ感じられるようになり、また、年度末に向けた慌ただしさと、新しい季節への期待が入り混じる時期となりました。現場で働く皆さまにとっても、寒さに耐えながら進めてきた工事も、ようやく次の節目が見えてくる頃ではないでしょうか。

この号が発行される頃には、WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の一次ラウンドが行われているのでしょうか? 日本人選手の活躍に元気をいただきながら、日々の生活にも活かしていきたいと感じております。

環境変化の激しい昨今ですが、本誌の情報が少しでも皆様のお役に立てることができれば幸いに思います。引き続き当協会へのご支援をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(広報部会一同)